

資料屋外 2 「高速 PLC の漏洩電波測定試験(案)」に対する指摘事項

(1) スライド 1 (はじめに)

スライド 1 の以下の記載については、スライド 2 の前にページを新規で追加し、そこに他の前提条件とともに記載すること ((2) 参照)。

測定条件

- ・ 測定データは X 方向、Y 方向、Z 方向の偏波を取得。
- ・ 各偏波のアベレージを取得。
- ・ 電界強度については、測定したデータを $(\sqrt{X^2 + Y^2 + Z^2})$ とする。

(2) 追加したスライド

① 測定条件

(1) の測定条件をこのスライドに記載すること。

② 試験送配電線の条件

スライド 2 の試験送配電線について、配線の高さ・配線間隔・電柱間隔の寸法、配線の断面構造及びその寸法等の配置の概略を記載すること。

③ 測定器の条件

アンテナ等の測定器のリスト及び測定時のアンテナ高を記載すること。

(3) スライド 2 ((1) 通常の使用状態での漏洩電波測定)

① 測定間隔

スライド 2 では、測定を b 柱から d 柱までの間で行う図となっているが、測定は a 柱から d 柱までの間で行うこと。なお、対象 PLC は 2~28MHz なので 25MHz を想定して、測定間隔は 2 m となっているが、3 m で良い。

② 外側の電柱の円周上での測定


スライド 2 では、配電線 (L1、L2、N) に沿った測定に沿った測定のみが提案されているが、水平距離 10m の測定では、a 柱及び d 柱の外側を半円周上に約 30 度おきに測定すること。

(4) スライド 3 ((2) 引込線での漏洩電波測定)

① 引込線

引込線が太い 1 本の線で図示されているが、この引込線は三線か二線かを記載すること。

② 終端のボックス

スライド3に記載されている引込線の終端のボックス  は何かを記載すること。

③ 引込線の漏洩電波測定

スライド3では、配電線 (L1、L2、N) に沿った測定が提案されているが、引込線の漏洩電波を測定するのであるから、配電線 (L1、L2、N) に沿った測定は不要。引込線から水平距離 1 m 及び 10m 離れて、引込線に沿って 2 m 間隔で測定すること。

(5) スライド4の前に1枚スライドを追加。

① 試験送配電線の条件

(2)と同様に、スライド4の試験送配電線について、配線の高さ・配線間隔・電柱間隔の寸法、配線の断面構造及び寸法等の配置の概略を記載すること。

② 柱上トランスの有無

22,000V から 200V に変換する柱上トランスはないのか確認したい。

(6) スライド4 ((3) 配電線添架形態別の漏洩電波測定)

① 送信 PLC は連続最大モードか。

スライド4には受信 PLC が記載されていないが、送信 PLC の出力は連続最大モードなのか確認したい。

② 受信 PLC の挿入 (一方向通信・双方向通信)

スライド4には受信 PLC が記載されていないが、受信 PLC も挿入した状態で測定すること。その際、片方の PLC 機器を受信モードにした一方向通信の場合及び双方向通信の場合の測定を行うこと。

③ 測定間隔

スライド4では測定間隔は 2 m となっているが、スライド2と同様に 3 m 間隔が良い。

(7) スライド5 ((4) 分岐線からの漏洩電波測定)

① スライド3 ((2) 引込線での漏洩電波測定) との違い

引込線に関するスライド3と何が違うのか確認したい。どのような目的で測定を行うのか確認したい。

② 分岐線の漏洩電波測定

スライド3に対する指摘と同様であるが、スライド5では、配電線 (L1、L2、N) に沿った測定が提案されているが、分岐線の漏洩電波を

測定するのであるから、配電線（L1、L2、N）に沿った測定は不要。分岐線から水平距離 1 m 及び 10m 離れて、分岐線に沿って 2 m 間隔で測定すること。

③ 外側の電柱の円周上での測定

スライド 5 では、配電線（L1、L2、N）に沿った測定に沿った測定のみが提案されているが、a 柱、d 柱及び新設した電柱の外側を半円周上に約 30 度おきに測定すること。

(8) スライド 6 ((5) 遠方界における漏洩電波測定)

① 送配電線の高さ

スライド 6 の図には、配電線の高さが記載されていないので、送配電線の高さを記載すること。

② 配電線（L1、L2、N）からの水平距離

スライド 6 では、測定点の配電線（L1、L2、N）からの水平距離は、1 m、10m、100m、150m、180m とされているが、測定点の水平距離は 10m、100m、180m とすること。

③ 測定間隔

スライド 6 では、測定間隔が 9.375m となっているが、測定間隔は 10 m とすること。

④ 外側の電柱の円周上での測定

スライド 6 では、配電線（L1、L2、N）に沿った測定に沿った測定のみが提案されているが、A 柱及び D 柱の外側を半円周上に約 30 度おきに測定すること。

(9) スライド 8 (参考)

① HPF の特性

ApexRadio の HPF の入出力インピーダンス (VSWR でも可) と挿入損失の周波数特性をスライド 9 として追加すること。